

令和5年度教育研究活動報告書

氏名	藤本 真理子	所属	芸術文化学部日本文学科
学位	博士（文学）	職位	准教授
専門分野	日本語学（古典）		

I 教育活動	
本年度担当科目	
	授業科目
学部	日本語史、日本語学基礎演習（前期）、日本語学基礎演習（中期）、日本語学基礎演習（後期）、古典語学専門演習a、古典語学専門演習b、卒業論文（構想・準備）、卒業論文（制作）、日本語学講義1（古典語）、日本語学講義3（古典語）、特別支援学校での体験／社会福祉施設での体験
大学院	日本語学特論
II 研究活動	
現在の研究テーマ（3つまで）	
（1）文献方言史	
（2）文法	
（3）指示詞	
本年度を含む過去3年間の研究業績 R5・R4・R3	
R5	<p>〈著書〉「12 指示詞・代名詞の変化」『よくわかる日本語学』ミネルヴァ書房（令和6年刊行予定）〈Proceedings〉「助詞「ヨ」の呼びかけ性—〈西洋人語〉との交差から—」『筑紫日本語研究』、pp. 25-32、令和5年</p> <p>〈報告〉「〔報告〕令和五年度尾道市立大学学長裁量教育研究費による「尾道の「顔」—町としてのイメージ形成」ミニ報告会」『尾道文学談話会会報』第14号、共著、令和6年2月</p> <p>〈報告〉「広島県尾道市三成学区の歴史と自然を訪ねる会『三訪会会報』—総目次（一）：創刊号～第一五号—」『尾道文学談話会会報』第14号、令和6年2月</p> <p>〈報告〉「〔報告〕公開研究会「尾道の町の顔」」『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第22号、共著、令和6年3月</p> <p>〈発表〉「言語資料で見つける「尾道」の顔」、公開研究会「尾道の町の顔」、尾道商業会議所記念館2階議場、令和6年2月28日（水）、地域総合センター共催</p> <p>〈発表〉「古典語の指示詞の運用—実在性から考える—」、第18回山の会（若手研究者の会）、令和5年9月18日、関西大学梅田サテライト</p> <p>〈発表〉「「誰か」による呼びかけ」、第19回山の会（若手研究者の会）、令和6年2月26日、白百合女子大学〈ポスター展示〉「尾道の町の顔」、まちなか文化交流館（Bank）1階、令和6年2月29日～3月9日</p>
R4	<p>〈論文〉「広島県尾道市三成地区の方言記述—地域の文献資料に残る方言談話から捉える—」『尾道文学談話会会報』第13号、pp. 43-50、尾道市立大学芸術文化学部日本文学科、令和5年2月</p> <p>〈論文〉「学科教育課程の現状と課題—初年次学修データの分析から—」『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第21号、pp.91～96、尾道市立大学、共著、令和5年3月</p> <p>〈報告〉「尾道市立大学での文芸創作の学び—FD 活動で2010年代をふりかえる—」『教職支援センター紀要』第4号、pp.87-92、令和5年3月</p> <p>〈報告〉「令和三年度日本文学科フィールドワーク成果報告—フィールドワークの事前指導から実地踏査、事後学習まで—」『尾道文学談話会会報』第13号、pp. 51-59、尾道市立大学芸術文化学部日本文学科、令和5年2月</p> <p>〈発表〉「助詞「ヨ」の呼びかけ性—〈西洋人語〉との交差から—」、筑紫日本語研究会第290回、令和4年5月28日、Zoomオンライン</p> <p>〈発表〉「方言意識と資料への記録の残りやすさ」、金水ゼミ・岡崎科研共同開催：研究発表会及び打ち合わせ、令和5年3月22日、立命館大学梅田キャンパス</p> <p>〈発表〉「呼びかけの「よ」までの変遷—江戸期の呼びかけを中心に—」、第17回山の会（若手研究者の会）、令和5年3月24日、関西大学梅田サテライト</p>
R3	<p>〈論文〉「日本語指示詞の変容—聞き手の存在と結びついた「そ」—」『日本語の歴史的対照文法』（編者 野田尚史、小田勝）、単著、和泉書院、pp.137-156、査読無、令和3年6月</p> <p>〈論文〉「学生の言語運用能力のパフォーマンス評価—「研究発表」のループリックから—」『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第21号、pp. 81～89、尾道市立大学、共著、令和4年3月</p> <p>〈論文〉「学科教育課程の現状と課題—初年次学修データの分析から—」『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第21号、pp.91～96、尾道市立大学、共著、令和4年3月</p> <p>〈論文〉「パロディとは—『浮世風呂』を例に似ているということを考える—」『尾道市立大学地域総合センター叢書』11、pp. 4-7、令和3年12月</p> <p>〈論文〉「地域の会報にあらわれる方言談話—『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に—」『尾道文学談話会会報』第12号、pp. 1-16、尾道市立大学芸術文化学部日本文学科、令和4年2月</p> <p>〈発表〉「指示副詞の形態素分析—ヨウニ・フウニ—」第15回若手研究者の会、令和4年3月18日</p> <p>〈ポスター発表〉「【ことばの扉】有標（marked）VS無標（unmarked）」第13回おのみち文学三昧、尾道市立大学日本文学会、Zoom開催、令和3年12月11日</p>

令和5年度教育研究活動報告書

氏名	藤本 真理子	所属	芸術文化学部日本文学科
学位	博士（文学）	職位	准教授
専門分野	日本語学（古典）		

R2以前の主な研究業績	
(1) <著書>	『〈役割語〉小辞典』（編者 金水敏）、執筆分担当、研究社、平成26年9月
(2) <著書>	『グループワークで日本語表現力アップ』、共著（野田春美・岡村裕美・米田真理子・辻野あらと・藤本真理子・稲葉小由紀）、ひつじ書房、平成28年3月
(3) <著書>	『ココが面白い！日本語学』（編者 岡崎友子・堤良一・松丸真大・岩田美穂）、執筆担当、ココ出版、平成29年4月
(4) <著書>	「指示詞」『日本語文法史キーワード事典』ひつじ書房、pp.51-52、令和2年12月
(5) <論文>	「もの言う動物—キャラクターとしての動物のイメージ」共著 平成26年12月、『語文』第103輯、大阪大学国語国文学会、〈共同研究者〉岩田美穂・藤本真理子、pp.43-54、査読有
(6) <論文>	「〈聞き手領域〉に関わるア系列の指示—中世を中心に—」『日本語文法史研究』3、ひつじ書房、平成28年12月、査読無
(7) <論文>	「現実世界の対象を表さないソの指示—歴史的変遷をとおして—」『語用論フォーラム2』、ひつじ書房、平成29年12月、査読無
(8) <論文>	「中古の力（ア）系列とソ観念指示用法—古典語における知識の切り替わりから—」『バリエーションの中の日本語史』（編者 岡崎友子・衣畑智秀・藤本真理子・森勇太）、くろしお出版、平成30年4月、査読無
(9) <論文>	「指示副詞の形式と意味—古典語・甌島方言を通して」（『鹿児島県甌島方言からみる文法の諸相』（編者 窪園晴夫、木部暢子、高木千恵）、単著、平成31年2月、くろしお出版、査読無
(10) <発表>	「ソ系列指示詞と不定語との関連—中古・中世を中心に—」日本言語学会、名古屋大学、平成27年11月、査読有
(11) <発表>	「古典語におけるソ系とア系の切り替わり—中古—」バリエーションの日本語史[シンポジウム1]「日本語指示詞における地理的・歴史的変異の研究」、平成28年4月
(12) <発表>	「高等学校生徒による方言教材作成—〈篠山弁〉を事例として」（ブース発表 方言に関する教育活動）日本方言研究会、平成29年5月、共同発表、査読有
(13) <発表>	「古典語・現代の文脈指示と文体」（日本語文法研究のフロンティア—文法史研究・通時的対照研究を中心に—）国立国語研究所プロジェクト「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」平成31年1月13日、NINJALシンポジウム、招待
(14) <発表>	「呼びかけの助詞「ヨ」の変遷—返事を期待しない働きとその特徴—」、第12回おのみち文学三昧、尾道市立大学日本文学会、Zoom開催、令和2年12月5日
(15) <書評>	「学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12」花鳥社、ホームページ掲載、令和1年10月31日
学会、所属団体における活動（本年度を含む過去3年間の研究業績） R3・R4・R5	
所属学会・所属団体 役職等と任期	
日本語学会（庶務委員：平成24年5月～平成25年4月）、日本言語学会（広報委員：平成30年4月～令和2年3月） 日本語文法学会、関西言語学会、土曜ことばの会（事務局員：平成24年3月～現在に至る）	
IV 社会活動	
1. 学外活動（本年度1年間の活動状況）	
(1) 第12回尾道マンガ大賞展の審査	
公開講座	1回
その他（ ）	1回
（公開講座・後援会・出前授業に関するもの、その他特記事項があれば記入）	
●公開研究会「尾道の町の顔」、尾道商業会議所記念館2階議場、令和6年2月28日（水）、地域総合センター共催（ちゅピCOMにて2024年5月に放映予定）	
●ポスター展示「尾道の町の顔」、まちなか文化交流館（Bank）1階、令和6年2月29日～3月9日	
（NGO・NPO活動、国際交流・協力活動、ボランティア活動等その他特記事項があれば記入）	
●三成学区の歴史と自然を訪ねる会『三訪会会報』のデジタルアーカイブ化計画について打ち合わせ、12月7日	